

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【II III V】
2 実施対象者	河内町立みずほ小学校 4年（15名）5年（27名）6年（22名）計64名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） 2 行事名（ ） 3 その他（ ） (2) 地域における活動 1 イベント名（ ） 2 その他（ ）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手話体験、車椅子体験やパラリンピアンのお話を聞くことを通して、障害者への理解や障害のある人もない人も共に生きる社会づくりへの意欲を高める。</li> <li>・児童がオリンピック・パラリンピックに触れる機会を設定し、パラリンピックの趣旨や競技についての理解を深めることで、オリンピック・パラリンピック教育の展開を図る。</li> </ul>
5 取組内容	<p>1 「障害を理解し、障害者の思いを知ろう」</p> <p>(1) 障害とは何だろう（2時間）</p> <p>(2) 肢体に不自由のある方や高齢者の気持ちを考えよう</p> <p>① 車椅子体験（2時間）</p> <p>ア 実施日 11月8日（水）</p> <p>イ 講師 ボランティア団体「ひまわりの会」</p> <p>ウ 主な学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子の使い方の説明を聞く</li> <li>・車椅子体験</li> <li>・高齢者体験</li> </ul> <p>② お礼の手紙を書こう（1時間）</p> <p>③ 障害者の思いを考えよう（1時間）</p> <p>(3) 聴覚に障害のある方とコミュニケーションをしよう</p> <p>① 手話体験（2時間）</p> <p>ア 実施日 11月22日（水）</p> <p>イ 講師 龍ヶ崎市聴覚障害者協会「たまごっち」</p> <p>ウ 主な学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手話での自己紹介を学ぶ</li> <li>・グループで、手話での自己紹介を実践する</li> <li>・講師の先生方に質問する</li> </ul>



- ② お礼の手紙を書こう（1時間）
- ③ 障害とは何なのか考えよう（1時間）

## 2 パラリンピックや障害者スポーツを調べよう

### (1) パラリンピアンのお話を聞こう（2時間）

- ① 実施日 1月22日（月）
- ② 講師 鈴木 徹 選手（パラ走り高跳び 日本記録・アジア記録保持者）

- ③ 主な学習内容
  - ・DVD視聴による自己紹介
  - ・講演、実技
  - ・質疑



- (2) お礼の手紙を書こう（1時間）
- (3) パラリンピックや障害者スポーツを調べよう（3時間）

## 3 おもてなしの心を学ぼう

### (1) 茶道体験（2時間）

- ① 実施日 2月8日（木）
- ② 講師 河内町まなびすと

- ③ 主な学習内容
  - ・茶道の歴史や茶道の場について話を聞く
  - ・茶道の所作についてお手本を見て学ぶ
  - ・お茶をもてなす側、いただく側の体験をする



- (2) お礼の手紙を書こう（1時間）
- (3) おもてなしについて考えよう（1時間）

## 6 主な成果

- ・車椅子、高齢者体験は、その不自由さを児童自身が体験することにより、障害について考えるよいきっかけとなった。

<児童の手紙から>

- ・高齢者の方や車椅子の方が大変なのは知っていましたが、想像以上に大変で驚きました。また、高齢者の方や車椅子の方の気持ちなども理解することができました。

- ・手話体験においては、聴覚障害者の方が、日常生活においてどのように困っているか、周囲の人にどうしてほしいかをしっかりと伝えてくれたことにより、児童が共に生きる社会づくりについて考えるよい機会となった。

<児童の手紙から>

- ・耳が聞こえないことで毎日が不便になってしまうということ、そしてそれをどうしようものが救ってくれているのかということがわかりました。

- ・パラリンピアンのお話を聞こう会では、講師の先生が障害のある人も障害のない人と同じに努力していること、障害者を特別扱いするのではなくその人本人を見てほしいこと、自分が何を好きか知って少しずつ頑張ってもらいたいことなどのお話をくださり、障害者と共に生きることについて考えたり、努力する意欲を高めたりすることに大変有効であった。また、実際に義足やメダ

	<p>ルに触れさせていただいたり、実技を見せていただいたりしたことで、パラリンピックへの関心が高まった。</p> <p>&lt;児童の手紙から&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2020年に東京パラリンピックがあるので、ぜひ家族で見たいと思います。</li> <li>• 障害のある人が、その見た目ではなく、自分を見てもらいたいことがわかりました。話を聞いて、これからぼくは、障害のある人の荷物などを持ったりしてあげたいと思いました。</li> <li>• 障害のある方が何を思って、パラリンピックに出ているのわかりました。パラリンピックもオリンピックに近い記録を出していてすごいなと思いました。</li> <li>• 障害があってもできることがたくさんあるということや、自分にしかできないことの大切さがわかりました。</li> </ul> <p>• 茶道体験では、実際にお茶をもてなし、いただくことにより、おもてなしについて考えるよい機会となった。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「パラリンピックや障害者スポーツを調べよう」を中心に、これまで、個別に行ってきた体験学習を一体化することにより、児童の学びを深く、豊かにするよう心がけた。</li> </ul>
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今回、パラリンピアンである鈴木徹選手においでいただき、お話を聞くことができたことは、児童にとって貴重な学びの機会となった。鈴木徹選手を講師にお招きすることについては、県教育庁保健体育課には大変お世話になりました。</li> </ul> <p>パラリンピアン等の講師を招聘することについて、学校だけでは困難である場合、今回のようなサポートを充実していただけるとありがたいです。</p>
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今年度末、町内すべての小学校が閉校となり、来年度より町内1校の義務教育学校となるため、同じような実施は難しいと考えます。児童にとって、とても有意義な学びであったので、何らかの形で継続していきたいと思いません。</li> </ul>